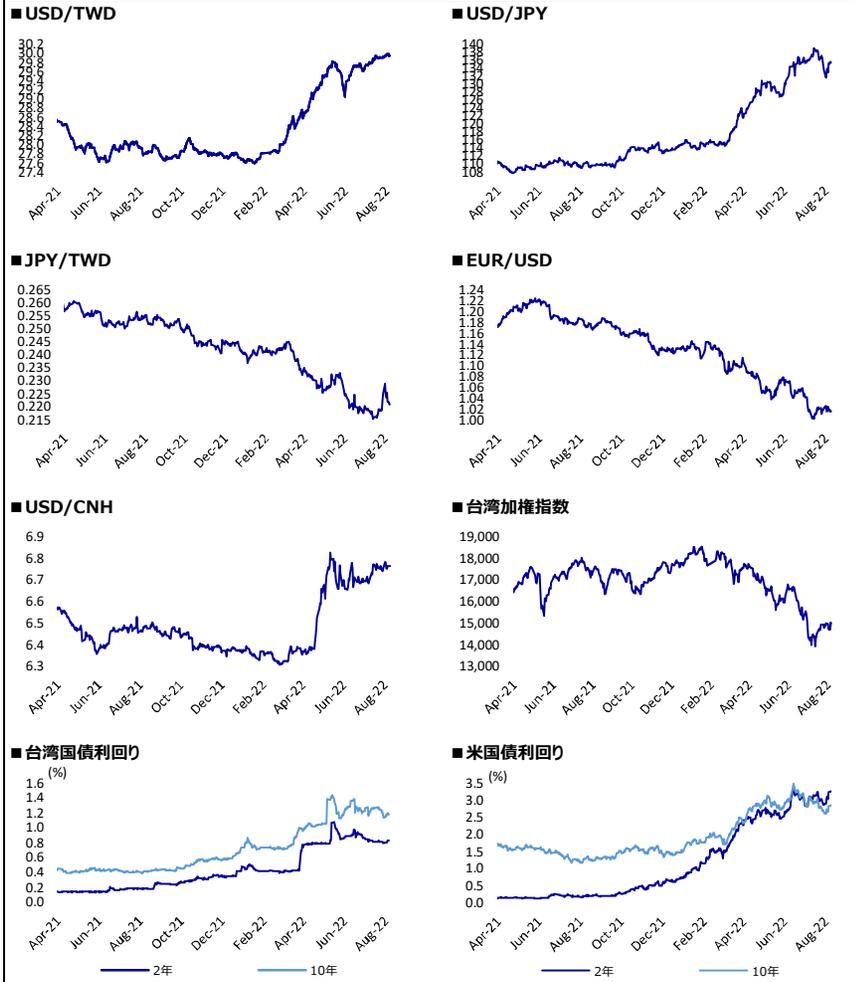


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは約2年2か月ぶりに30台に。週初8/1は29.970でオープン後、ペロシ米下院議長の訪台計画から地政学リスクが高まる中、配当金の海外への送金から引き続きドル買いが優勢で約2年2か月ぶりに30台をつけた。8/2は地政学リスクの高まりから台湾株が売られるとドル台湾ドルは一時30.062まで上昇。しかし、その後は上値を押さえる動きもあり29台に戻した。8/3はペロシ米下院議長が台湾に到着したが、影響は限定的で、配当金の海外送金のドル買いが入るも30台では輸出企業のドル売りが入りレンジでの推移となった。8/4も同様に輸出企業のドル売りから上値が押さえられ、終値は30を割り込み、8/5には台湾株が買い戻されたことから台湾ドル買いが優勢となり、最終的に先週比ほぼ変わらずの29.950で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は119.9億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初8/1は133.30でオープン後、中国、台湾と製造業PMIが下振れし、分岐である50を割り込むと世界的な景気後退への懸念から円が買われ、131円台後半まで下落。その後発表された米ISM製造業景気指数は予想を上回ったが内訳で新規受注が50を下回り、需要低下が警戒され131円台半ばまで下落。8/2はペロシ米下院議長の訪台報道を受けた地政学リスクの高まりからリスクオフの円買いとなり、一時130.40まで下落。その後は130円台での推移が続いたが、テリー・サンフランシスコ連銀総裁、エバンズ・シカゴ連銀総裁からタカ派発言があり、米金利の上昇と共にドルが買われ133円台に戻した。8/3は中国がペロシ米下院議長の訪台に対抗し、軍事演習等を発表し、一時132円台前半まで下落。その後は133円台に戻し、ISM非製造業景気指数が予想を上回ったこともあり、134円台半ばまで上昇。8/4は英中銀が50bpの利上げを発表する一方、長期のリセッション入りの可能性の言及もあり、ボンド/円が下落する動きにドル/円は連れ安となり、133円台前半に。また、翌日に控えた米雇用統計や中台の地政学リスク等への警戒感から132円台後半まで下落。8/5は133円台に戻すも米雇用統計の発表を控え方向感に乏しかったが、発表されるとヘッドラインが予想を上回り、失業率も低下すると米金利が急上昇し、ドル円も一時135.52まで急伸。ドル買いが一服すると135円ちよど付近で推移し、最終的に先週比1.4%ドル高円安の135.02で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：29.850-30.100
地政学リスクへの警戒感からの台湾売りは一旦落ち着いている。しかしながら、経済指標を受けた米金利上昇によるドル買いの流れには警戒していきたい。

■ USD/JPY 予想レンジ：132.00-140.00
今週は米7月CPIの発表を控えている。強い米雇用統計を受けて、9月の0.75%利上げ見込みが高まっており、CPIも引き続き高水準である場合、利上げ圧力が強まり、ドル円は上昇しやすいであろう。一方、景気後退リスクも高まり、地政学リスクへの警戒感もある中、リスクオフの円買いにも注意したい。

今週の予定

8/8 (MON)	台湾7月貿易収支
8/9 (TUE)	
8/10 (WED)	米7月CPI
8/11 (THU)	米7月PPI
8/12 (FRI)	米8月ミシガン大消費者信頼感指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。